

二ツポン

ドクター和の



臨終回卷

長尾和宏（ながお・かずひろ） 医学博士。東京医大卒業後、大阪大第1内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。著書「薬のやめどき」「痛くない死に方」はいずれもベストセラー。西国際大学客員教授。

一線からの身を引き15年、コーチとして古巣へ戻つて来たのです。一緒に頑張っていた仲間にとっても、彼の死はまさに「想定外」だったことでしょ。体調不良を訴えて緊急入院したのは死の3日前の6月25日。しかし回復せず、多臓器不全による急死となりまし

不全と呼びます。たとえば、以前この連載で取り上げた渡瀬恒彦さんは胆のうがんで鬱病していましたが、死因は多臓器不全として報道されました。死因とはつまり、医師が死亡診断書に何と書くかで決まります。がんで亡くなった人でも死の直接的な原因として、多臓器不全と記載されることがあります。

曰。全治1年の大けがを負つてしまふのです。球を投げた瞬間、「腕がボロンと取れた」と思ったほどの衝撃的な痛みと、絶望感を味わったと言います。

けがら森さんの想定外の人生

が始まりました。一度もアメリカで大勝負に挑めぬまま夢半ばで第

森さんは2006年、絶好調だった31歳のとき、西武ライオンズからメジャーリーグに挑戦。渡米しました。しかしシーズン開幕直前に右肩脱

育成の夢奪つた突然死

毎年の健診で、もし何らかの異常を指摘されたら必ず医療機関を受診し医師とよく相談してください。森さんは今後多くのスターを育てていくはずでした。一番悔しかったのは本人でしょう。